

## 海洋深層水利用促進委員会 2017 北海道大会報告

山田 勝久（海洋深層水利用学会 利用促進委員会）

今年の利用者懇談会は、海洋深層水利用学会の前夜にあたる 10 月 11 日（水）の午後 3 時と早い時間からの開始となったにもかかわらず、会場となった羅臼町公民館 2 階大ホールには約 40 名の関係者が参集し、「北海道における海洋深層水の利活用について」と題して開催されました。北海道内に 3 箇所ある海洋深層水取水地域から羅臼町、岩内町、八雲町の各々の代表者がパネラーとして登壇し、西川明豪氏（株式会社エコニクス）のコーディネートで幕が上がりました。

最初に各地域における海洋深層水利活用の現状として、水産分野での利用状況について、羅臼町役場の山石秀樹氏からは、現在羅臼町では海洋深層水の取水量の内 90-95%が水産分野で利用されている旨の話がありました。これに続いて岩内町の釜谷豊和氏も水産利用が 90%に上ると話されました。八雲町の黒丸勤氏も現在、殆どが水産利用されていると話され、今日北海道の 3 箇所では取水されている海洋深層水の利用実態が、わが国における海洋深層水利用の主眼通り、水産分野に集中していることが鮮明となりました。興味深いところでは、岩内町での鮮度保持を目的としたホタテ輸出向けの活魚輸送用海水としての利用、また八雲町では、豊富な温泉水との熱交換により低温の海洋深層水を温めて魚類の一次蓄養海水として革新的な利用が進められているとの報告があり、北海道における水産分野に対する海洋深層水利用技術の先進性が強く感じられました。また各地域ともに水産分野以外への海洋深層水の利用についても積極的に検討されており、北海道という特徴を生かした農畜産分野への挑戦についての話題が提供され、羅臼町では酪農分野の他に玉ねぎの栽培、岩内町では塩トマトやメロンの栽培試験を実施、さらに地元の農業系大学との共同で研究を進めた実績についても話がありました。また八雲町では海洋深層水利用による「日本一、高価なかぼちゃ」が既に商流に乗っているとの報告もありました。さらに海洋深層水の加工分野の利活用については、知床らうす海洋深層水利用者協議会の宗形卓氏が、塩や化粧品ならびに清涼飲料水への利用実態が説明されました。

最後に海洋深層水の利活用における課題として上述の 3 箇所の地域から、これまでのような町レベルの取組みには限界があるので、今後は広域での利活用に向けて北海道として海洋深層水事業の取組み支援と海洋深層水利用における有効性の実証データの取得などを積極化する必要があるとの認識を共有し、極めて有意義な形で締めくくられました。



図 1 パネルディスカッションの様子